

## § 準備のいないワークショップ §

## 3 - 1 インプロのシナリオ

ワークショップリーダー：W.L. 解説：\*

W.L.：「これから皆様にインプロを体験していただきます。インプロとは、インプロバイゼーション、即興劇とも言われています。非日常的な即興劇を行うことによって、言葉に頼らずに自由に表現したり、発想力や想像力、観察力などを養ったりすることができます。インプロの目的は、恥ずかしさや不安を克服すること。つまりこのままの自分で良いのだと思えるようになることです。また、豊かな表現力を養うことです。身体を使って表現しますので、スムーズに話をするすることができます。

では、始める前にルールを決めましょう。

私が右手を挙げたら、それまで行っていたお話や作業をやめて、全員私を真似て右手を挙げてください。全神経をリーダーの私に向けてください。お話に夢中になって、気がついていない人がいたら、周囲の人たちが促してください。」

W.L.：「さあ、グループ作りをします。自由に歩いてください。はい。そこでストップしてください。近くに居た方、3人～5人でグループを作ってください。お互いに挨拶をどうぞ。」

\*グループの人数は、小人数が望ましい。幾つグループができて構わない。  
会場内を自由に歩いて、W.L.がストップを掛けた時点で、近くに居た方たちとグループを作った方が意外性がある楽しい。

W.L.：「では、まず、演技の練習から始めましょう。皆さん、リンゴを表現してください。よく皆さんが陥る方法はリンゴの形を指で作って表現しますが、それよりもこのように（と言ってちょっと服の端で擦って、ガブッと噛みつく仕草をする）したほうが分かりやすいと思いませんか？」

\*と言ってW.L.：は演技表現を練習するためのテーマを与える。  
〈例：バナナ、みかん、ラーメン〉

W.L.：「本日のテーマは、「あれ、どうしたんだろう!？」です。皆様の周りにもありませんか？  
どうしたんだろう？体重が増えた。どうしたんだろう？忘れっぽくなった等、いろいろなどうしたんだろう？があると思います。

テーマに即した物語をグループごとに話し合って作ってください。」

\*と言って話し合いの時間設定を決める。 〈例：8～10分〉。

W.L.：「物語の内容を相談する時には、グループ内の全員が必ず意見を言うようにしてください。また、一人の意見に押し流されたり、沈黙している人がいたりしないように、周囲の人は気をつけてください。」

\*グループ内では、どういう設定で、どういう登場人物を自分が演じるのかを確認する。

\*物語を作りやすくするために「何が（起）、何して（転）、どうなった（結）」や、「主人公・を邪魔する人・主人公を助ける人」という要素を含ませるとよい。

W.L.：「(8～10分後、右手を挙げる) (皆も右手を挙げ、話をやめる) では、今の話を無言劇で発表してください。なお、観客に向かって背中を向けないでください。始めに発表したいグループは？」

W.L. : (最後のグループの無言劇が終わったところで)「では、今度は無言劇に言葉をつけて再現してください。一番最後に演じたグループからその場でどうぞお願いします。観客の皆さんは先ほどの演技の謎が解けるのを楽しみにしながら見てください。」

W.L. : 「(全グループが終了後)皆様、お疲れさまでした。今度はそれぞれが登場人物になりきったままで、物語を要約し発表をしてください。 <例：所用時間 1人約 30秒～1分>」

W.L. : 「(全員が終了後)皆様、お疲れさまでした。」

W.L. : 「皆様、いかがでしたか？今日の体験についての皆さんの感想を一人一言ずつどうぞ。」

- 
- \* 演技者全員に出番を作るため、グループ作りは小人数（3～5人）の方が良い。
  - \* テーマは、身近な話題や行事、また参加者が興味を持っていると思われるもの、あるいは発想力が広がるものを選ぶ。  
<例：田植え・お盆・クリスマス・お正月・嬉しい・間に合った！・あった、あった！  
・あれ、どうしたんだろう!?!>
  - \* 顔の表情や仕草等を恥ずかしがらずに、はっきりとした動作で演じることが大切である。
  - \* 動作が先にできているので、言葉（セリフ）がつけやすい。
  - \* 演じた内容を発表することで、即興スピーチの練習ともなる。
  - \* 「回転寿司」で用いたテーマをそのままインプロのテーマに用いても、自分の考えや話が十分にできあがっているため、グループ内で演技の相談をする際に、物語が作りやすい。

<日本リージョン 第33期 教育・資料研究委員会>  
作者：齊木ゆかり 山口久美子